

幌延 ICT 教育通信

発行：幌延情報教育センター

昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、在宅勤務に関する「リモートワーク(テレワーク)」や、「WEB会議」だけでなく、「オンライン授業(オンライン教育)」という言葉も、教育業界だけでなく、社会全体に浸透しつつあり、学校現場においても、授業や校務におけるICTの活用、いわゆる「教育の情報化」が急速に加速しています。

情報教育センターでは、先日5月11日に開催した所員会議にて、臨時休業中における各学校の取組について情報交換し、今後、町内で非常時にどのような対応ができるのかを検証していく必要があることを確認しました。

学校再開後も、再度、臨時休業対応が余儀なくされることが十分考えられるとされるコロナ状況の中、検証や検討を通して、「ICT活用による学びの保障」を円滑に取り組める体制づくりを推進することが求められています。

令和元年度取組のふりかえり プログラミング教育や 遠隔授業の研究・検証を実施

楽の公開研究授業や、令和2年度の年間指導計画の作成等に取り組みました。本事業は令和元年度から3か年の指定を受け、取組の成果を管内の学校へ普及し、導入の円滑化を含むプログラミング教育の充実が目的となっています。1月の道北会場成果交流会では、小林巧治先生が、幌延の取組を報告しました。

昨年度は、幌延小学校が「プログラミング事業(道教委事業)」の道内20校の研究実践校の1校に採択され、高橋先生による「Scratch(スクラッチ)」を使った音



また、幌延中学校と問寒別中学校では、「遠隔教育システム導入実証研究事業(文科省事業)」の全国14箇所の1実証地域に採択され、日本全国の大学、研究機関等の学術情報基盤となっている情報通信ネットワーク「SINET(サイネット)」を活用した遠隔授業に取り組みました。



町内2校の社会や英語の遠隔授業に、北海道教育大学の教授や学生、天塩高校の先生が参加し、授業後の助言や、大学生の考えた英語のスキットモデル発表等が行われました。幌延中学校の佐々木先生が行った成果報告の動画も、Youtubeにアップロードされています。(1:04:20~)

<https://www.youtube.com/watch?v=yukSjC38rxQ&feature=youtu.be>



令和2年度の新しい取組 小学校英語遠隔授業や 校務支援システム活用始まる

小学校の宮古支援員が問寒別小学校で実際に支援する授業と、テレビ会議システムを活用して遠隔で支援する授業の2形式の授業を今年で実施します。(冬季は全て遠隔)

今年度から、「校務支援システム」を導入し、すでに各学校で、ICT担当の先生を中心に、「出席簿」からの活用が始まりました。児童生徒の顔写真を取り込んだ「いいとこみつけ」機能を活用し、気付いた先生が書き込みをする等の工夫した取組が行われています。(25号②に続きます)

新学習指導要領の全面実施に伴い、問寒別小学校では、外国語活動及び外国語授業の充実を図るため、週に1度、「教師支援型」の遠隔授業を実施しています。幌延小

